

令和5年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 19	公益目的事業 19
主査名	林 克彦 流通経済大学教授	
研究テーマ	持続可能なラストマイルネットワークの構築可能性に関する研究	
研究の目的：		
ネット通販の配送需要が増加する中、従来からの労働力不足に加えて、2024 年 4 月からトラックドライバーの時間外労働規制が加わり、ラストマイルネットワーク維持という課題は深刻化している。本研究では、現状のネット通販物流の課題のうちラストマイルネットワークに焦点を当て、政策や企業施策の新たな潮流とその効果の検証を試みる。		
研究の経過（4 月～3 月）：		
① 第 1 回オンライン併用研究会（7 月 26 日） 4 件の発表と質疑を行った（中間報告通り）。		
② ドライバーの職務満足度アンケート調査（8 月 25 日～31 日） 宅配便及びネット通販商品を配達するドライバーに対する職務満足度調査を実施した（中間報告通り）。		
③ 第 2 回オンライン併用研究会（9 月 27 日） 3 件の発表と質疑を行った（中間報告通り）。		
④ 第 3 回オンライン併用研究会（1 月 24 日） 「イギリスにおける（食品・日用品を中心とした）ネット通販の現況」（林）、「ラストマイルにおける個人事業主の実態調査」（須藤）、「我が国の物流革新に向けた取り組みについて」（根本）		
⑤ 第 4 回オンライン併用研究会（3 月 11 日） 「オープンロッカープロジェクトのご紹介」（ゲスト発表：城戸）、「グリーン物流事業（共同輸配送 PF 事業）について」（高野）、「労働者性に関するアンケート調査の概要」（須藤）、「トラック事業者に対する規制的措置」（根本）		
⑥ ドライバーの労働者性に関するアンケート調査（3 月 18 日～27 日） 宅配便及びネット通販商品を配達するドライバーに対して労働者性に関する調査を実施した。個人事業主、社員、アルバイトの区分により、職務満足度、継続意向、推奨意向、契約条件、職務引き受けの自由度・拘束度等の労働者性等を調査した。		
研究の成果（自己評価含む）：		
上記研究経過どおり、ラストマイルネットワークの持続可能性について実態を把握し、事業者の対応、政策等、多様な視点から検討することができた。とくにラストマイルネットワークで重要性を増している軽トラック運送事業者の実態と職務継続意向を把握することができ、有意義であった。本研究の一部は、物流学会査読論文として投稿した。		
今後の課題：		
ラストマイルネットワークの持続可能性を高めるため、環境問題や交通安全に配慮しながら、ドライバーの職務満足度・継続意向の向上や労働条件の改善等を図ることが必要になっている。今後、労働需給がさらに逼迫するなか、持続可能性を高めるためのより具体的な施策を検討することが課題である。		